

# 南海トラフ地震 迅速避難や耐震化徹底を

## 対策万全なら 死者8割減少

内閣府の有識者が公表した「南海トラフ巨大地震」の新想定は、二つのメッセージが込められている。一つは「想像を絶する震災が起きる恐れがある」。

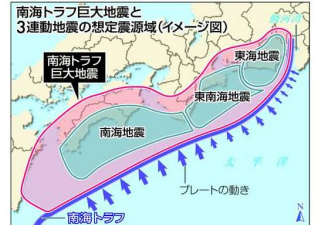
**死者32万3000人**

<b>【津波】</b> 20%が10分、50%が20分で避難、30%が津波まで逃げない	<b>23万人</b>
<b>【建物倒壊】</b> 建物の耐震化率79%(2008年) 家具の固定率26%(2009年)	<b>8万2000人</b>
<b>【火災】</b>	<b>1万人</b>
<b>【その他】</b>	

**どうすれば犠牲者減?**

**6万1000人**

全員が10分後に避難、津波避難ビルを有効活用	<b>4万6000人</b>
耐震化率と家具の固定率100%	<b>1万5000人</b>
初期消火など火災防止	<b>300人</b>



死者20万人、死者32万3000人、死者40万人、死者50万人、死者60万人、死者70万人、死者80万人、死者90万人、死者100万人、死者110万人、死者120万人、死者130万人、死者140万人、死者150万人、死者160万人、死者170万人、死者180万人、死者190万人、死者200万人、死者210万人、死者220万人、死者230万人、死者240万人、死者250万人、死者260万人、死者270万人、死者280万人、死者290万人、死者300万人、死者310万人、死者320万人、死者330万人、死者340万人、死者350万人、死者360万人、死者370万人、死者380万人、死者390万人、死者400万人、死者410万人、死者420万人、死者430万人、死者440万人、死者450万人、死者460万人、死者470万人、死者480万人、死者490万人、死者500万人、死者510万人、死者520万人、死者530万人、死者540万人、死者550万人、死者560万人、死者570万人、死者580万人、死者590万人、死者600万人、死者610万人、死者620万人、死者630万人、死者640万人、死者650万人、死者660万人、死者670万人、死者680万人、死者690万人、死者700万人、死者710万人、死者720万人、死者730万人、死者740万人、死者750万人、死者760万人、死者770万人、死者780万人、死者790万人、死者800万人、死者810万人、死者820万人、死者830万人、死者840万人、死者850万人、死者860万人、死者870万人、死者880万人、死者890万人、死者900万人、死者910万人、死者920万人、死者930万人、死者940万人、死者950万人、死者960万人、死者970万人、死者980万人、死者990万人、死者1000万人

### 津波避難所をつくる

南海トラフ地震で最大の津波が予想される静岡県浜州市は、河川のしめ上げ土を盛った高さ二メートルの小山「命山」を造っている。

津波に高さ以上の防波堤があるが、津波部に高層の建物はほとんどない。地元には、江戸時代の村人が高層の水害から逃げるために造った「命山」が今も一万所残っている。その先の知事に学んだ、用地代を無償で提供した。費用は二億一千五百万円、来年八月に完了する。

### 先人に学び「命山」 静岡・袋井

袋井市の津波避難所は、盛り土の避難施設ばかりで、住民の巻き戻し、四方上がれる階段のほか、車いすでも利用できるようにロープを設備。頂上八百人乗りの避難所として使用。避難タワーの寿命は約四十年とされるが、盛り土なら建て替えの必要がなく、かさ上げできる。元町の自治会長、安間登志夫(こし)は「命山を学んで、津波が不安。命山を待つことにしている」と話す。(向野貴子)



三重県北牟婁郡相賀の自主防災会は、住宅街に近く高さ四・四八メートルの高台を整備し、津波からの避難場所とした。高台までの避難はほとんど、道なき斜面を住民が切り開いた。(津波避難ビル)に指定さ

### 高台を整備 住民の手で

三重・紀北  
自主防災会が、住宅街に近く高さ四・四八メートルの高台を整備し、津波からの避難場所とした。高台までの避難はほとんど、道なき斜面を住民が切り開いた。(津波避難ビル)に指定さ

### 避難路をひらく

避難路をひらく。高台には、薪の倉庫も置いてある。自主防災会(と)は「住民、町、業者が一体となって造った避難場所。初めから自力で頼り切らず、各自分ちり切つて、各自分ちり切つて(大切)と話

### 防災意識を養う



### ゲームで楽しく習得

名古屋市立大の防災講話。ゲームで防災意識を養う。子どもたちは、避難所でのゲームや講話を通じて、防災意識を養っている。

名古屋市立大の防災講話。ゲームで防災意識を養う。子どもたちは、避難所でのゲームや講話を通じて、防災意識を養っている。

「備える/3.11から」好評発売中。本連載が「備える! 3.11から」のタイトルで、主な書店で発売されています。問い合わせは中日新聞出版部 電話052(221)1714へ。